

決済手段に現金を選好する要因

吉田 帆乃花

1. はじめに

キャッシュレス決済とは現金を使わずにお金を支払うことである。経済産業省[1]は、「大阪・関西万博(2025年)に向けて、『支払い方改革宣言』として『未来投資戦略2017』で設定したキャッシュレス決済比率40%の目標を前倒しし、高いキャッシュレス決済比率の実現を宣言している。さらに将来的には、世界最高水準の80%を目指していく」と述べている。

経済産業省[2]によると、2023年のキャッシュレス決済比率は39.3%であり、目標年に向け堅調に上昇している(図 1)。しかし、将来的に目指す世界最高水準のキャッシュレス決済比率80%までは至っていない。

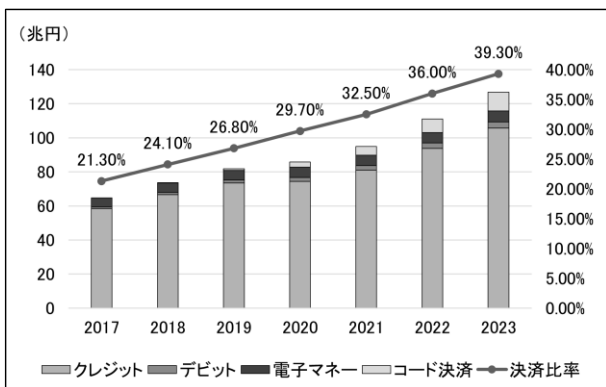


図 1 キャッシュレス決済額及び比率の推移

出典: 経済産業省経済産業省(2024)「2023年のキャッシュレス決済比率を算出しました」より筆者作成

主要国のキャッシュレス決済比率を比較すると、日本のキャッシュレス決済比率は低く、諸外国から遅れをとっていることが分かる(一般社団キャッシュレス推進協議会[3])(図 2)。

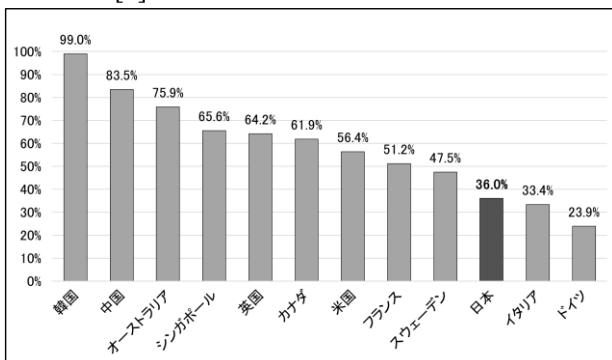


図 2 主要国のキャッシュレス決済比率

出典: 一般社団法人キャッシュレス推進協議会(2024)「キャッシュレス・ロードマップ2024」より筆者作成

経済産業省[4]は、キャッシュレス推進の社会的意義は、『人々と企業の活動』に密接に関わる『決済』を変革することで、既存の課題を解決し、新たな未来を創造することであると述べる。キャッシュレス決済を推進することは、消費者の利便性向上、現金決済に係るインフラコストの削減、業務の効率化や人手不足の対応、公衆衛生上の安心の実現、現金保有や取引機会の減少による不正や犯罪の抑止など、既存の課題の解決につながる。また、データ連携・デジタル化、多様な消費スタイルの創造、脱炭素社会への貢献など、新たな未来の創造にもつながる。

このように、キャッシュレス化は私たちにとって多くのメリットをもたらすが、日本での普及は他国に後れを取っている。なぜ日本のキャッシュレス決済比率の水準は低いのだろうか。

世界最高水準のキャッシュレス決済比率80%を目指すためには、なぜ現金を使い続ける人がいるのかを明らかにする必要がある。

2. 先行研究

なぜキャッシュレス決済ではなく現金を使い続ける人がいるのか。決済手段の決定要因については、いくつかの先行研究が存在する。ここでは、決済手段に関する先行研究を確認する。

鶴沢[5]では、キャッシュレス決済の促進および抑制要因を明らかにするため、キャッシュレス決済の利用が最も盛んな関東圏の20代の消費者を調査対象にアンケート調査を行った。調査結果より、キャッシュレス決済の抑制要因が「使いすぎ」、「個人情報流出が心配」、「チャージが面倒」の3つであることが明らかとなった。また、キャッシュレス決済の促進要因が「ポイント利用」であることから、現金のみ利用者はポイント利用に関心が少ないのではないかとしている。

翁[6]は、2023年と2018年に実施した「キャッシュレス決済実態調査」に基づき、消費者のキャッシュレス決済動向の変化を分析した。2023年の調査結果より、商品やサービス購入時の支払い手段の希望に関する設問に対して、「できるだけクレジットカードで支払いたい」と回答した割合は40%、「できるだけQRコード・バーコード決済で支払いたい」と回答した割合は25%、「できるだけ現金で支払いたい」と回答した割合は19%であった。「できるだけ現金で支払いたい」と回答した理由を問う設問では、「現金以外の方法は、お金を使っている感覚がせず、使いすぎてしまうから」と回答した割合は42%、「現金以外で支払う必

要がないから」と回答した割合は22%,「現金以外の方法は、セキュリティが不安だから」と回答した割合は13%であった。

日本銀行[7]では、日本銀行が実施しているアンケート調査に基づき、キャッシュレス決済の利用状況を概観し、決済手段の選択理由などを検証した。調査結果より、現金決済が選好される理由のうち、「その場で支払いが完了する」や「使い過ぎる心配が少ない」といった特性については、即時決済機能や利用金額上限を設定できるデビットカード、電子マネー、プリペイドカードなどのキャッシュレス決済手段も既に持ち合わせていることから、現金がなお広く使われ続けている背景には、ネットワーク外部性や慣性効果が働き続けている可能性があるとして述べている。ネットワーク外部性とは、ネットワークが大きいほど、個々のネットワーク参加者にとっての効用も増大するという関係のことである(日本銀行[7])。

3. 研究目的

先行研究では、第一に現金が広く使われ続けている背景には、現金決済を利用できる場所が多いことや現金決済が習慣化し、それを変えることが難しい、といった要因があることが示された。第二に、現金利用者はキャッシュレス決済に不安や面倒を感じているが、それらを解決する特性が、キャッシュレス決済にはすでに備わっていることも示された。この研究では2点目に注目する。

現金を使う人々は、キャッシュレス決済に関わる不安を解消する機能(特性)がキャッシュレス決済にあることを知らないのではないかと。言い換えると、現金決済を選好する人がキャッシュレス決済の特性を知ることによって、キャッシュレス決済を利用し始めるのではないかと。しかし、先行研究では、現金を選好する人がキャッシュレス決済の特性を認知しているかについては明らかにしていない。

現金利用者はキャッシュレス決済の特性を知らないのだろうか。そもそも、キャッシュレス決済に対する関心が無いのだろうか。あるいは、現金決済で支払うことが好んでいるため、現金決済を使い続けているのだろうか。本研究では、キャッシュレス決済に対する知識不足により現金決済が選好されているのか、あるいは他の要因や好みとの関係で現金決済が選好されているのかを明らかにする。その上で、キャッシュレス決済を促進させるためには今後どのような施策が必要なのかを検討する。

4. 仮説

本研究では、以下の5つの仮説を検証する。

①現金決済を選好する人は、キャッシュレス決済に対して関心が無い:キャッシュレス決済に対して関心が無いため、利用するきっかけなどが無く、結果として現金決済を選好しているのではないかと。

②現金決済を選好する人は、キャッシュレス決済の特性を知らない:キャッシュレス決済に関する知識不足により、現金決済を選好しているのではないかと。

③現金決済を選好する人は、現金で支払うことを好んでいる:貨幣を手にするのを好んでいるため現金決済を選好しているのではないかと。

④現金決済を選好する人は、ポイント利用に関心が無い:鶴沢[5]でキャッシュレス決済の抑制要因が「ポイント利用」であったことより、ポイント利用に関心が無いため現金決済を選好しているのではないかと。

4. 調査および分析の概要

4.1. 調査概要

会津大学短期大学部の学生を対象にアンケート調査を行った。会津大学短期大学部の学生を調査対象とした理由は、キャッシュレス決済の利用度が高い若年層であり、なおかつキャッシュレス化に先進的な会津で生活しているためである。会津若松市はデジタル電子通貨「会津コイン」の普及に努めており、キャッシュレス化に先進的である。今後、会津コインを更に普及させるためには、若者の利用を増やすことが鍵となる。本研究で決済手段に現金決済を選好する要因を明らかにすることで、会津コインをより普及させる施策の検討にもつながる。

- 方法:Googleフォームによるアンケート調査
- 期間:2024年11月22日～2024年12月17日
- 有効回答数:84件

4.2. 調査項目

主な調査項目は以下の通りである。

- (1) 日常の支払い手段として現在利用している全ての決済手段(複数回答可)
- (2) 日常の支払い手段として最もよく利用する決済手段
- (3) 日常の支払い手段として今後特に利用頻度を増やしたい決済手段
- (4) 新たに使い始めたい決済手段
- (5) キャッシュレス決済利用の検討の有無
- (6) 利用限度額の設定や利用履歴の確認ができるキャッシュレス決済があることを知っているか
- (7) オートチャージ機能を知っているか
- (8) 現金決済を希望する理由(複数回答可)

調査項目(5)～(8)は、調査項目(2)「日常の支払い手段として最もよく利用する決済手段」で「現金」と回答した人へのみ質問した。日常の支払い手段は「現金」、「クレジットカード」、「デビットカード」、「交通系ICカード」、「流通系ICカード」、「タッチ決済」、「QRコード決済・バーコード決済」とした。調査項目(3)と(4)は、利用頻度を増やしたい決済手段や新たに使い始めたい決済手段がないことも考えられるため、日常の支払い手段として挙げている7つの選択肢に加えて、「ない」という選択肢も追加した。

5. 結果

調査項目(2)「日常の支払い手段として最もよく利用する決済手段」で「現金」と回答したのは63件(75%)であった。以下ではこの回答者について分析する。

5.1. 仮説①について

仮説①(現金決済を 선호する人は、キャッシュレス決済に対して関心が無いのではないか)を検証するために、調査項目(3)、(4)、(5)の結果を確認する。

図3は、現在利用している決済手段の中で、利用頻度を増やしたいと思っている決済手段を表している。利用頻度を増やしたい決済手段に「現金」(13%)、「ない」(17%)と回答した割合を除くと、全体の約7割がキャッシュレス決済の利用頻度を増やしたいと考えているという結果となった。

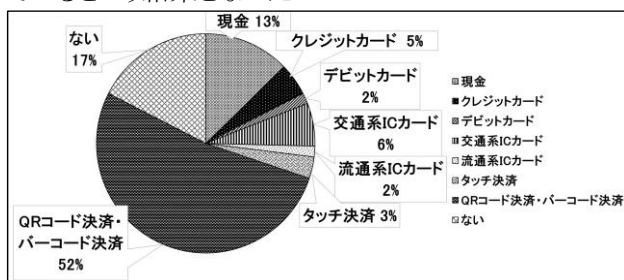


図3 現金決済を 선호する人における利用頻度を増やしたい決済手段の割合

図4は、新たに使い始めたいと思っている決済手段を表している。新たに使い始めたい決済手段に「現金」(2%)、「ない」(28%)と回答した割合を除くと、全体の約7割がキャッシュレス決済を新たに使い始めたいと考えているという結果となった。

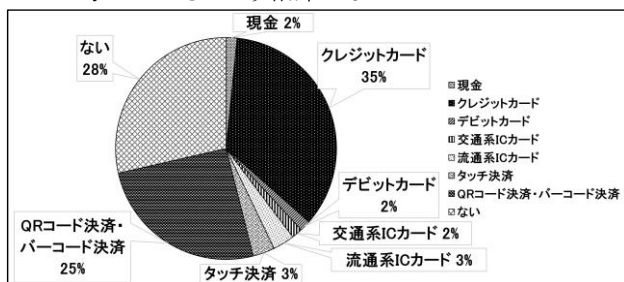


図4 現金決済を 선호する人における新たに使い始めたい決済手段の割合

図5は、キャッシュレス決済利用の検討の有無を表している。キャッシュレス決済の利用を検討したことがある割合は全体の約8割であった。

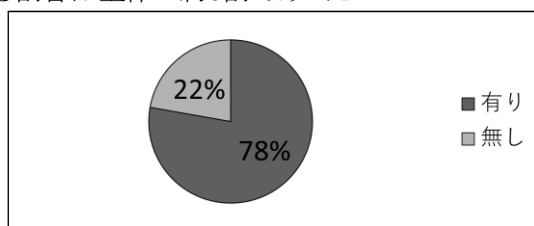


図5 現金決済を 선호する人におけるキャッシュレス決済利用検討の有無

以上の結果より、現金決済を 선호する人の多くがキャッシュレス決済の利用について考えており、キャッシュレス決済に関心があることが明らかとなった。

5.2. 仮説②について

仮説②(現金決済を 선호する人がキャッシュレス決済の特性を知らないのではないか)を検証するために、調査項目(6)、(7)の結果を確認する。

図6は、調査項目(6)「利用限度額の設定や利用履歴の確認ができるキャッシュレス決済があることを知っているか」という質問をした結果である。全体の約6割が知っていて、残りの約4割は知らないという結果となった。

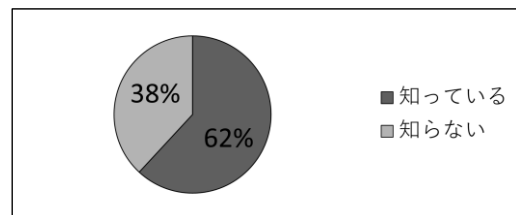


図6 利用限度額の設定や利用履歴の確認ができるキャッシュレス決済があることを知っているか

図7は、調査項目(7)「オートチャージ機能があることを知っているか」という質問をした結果である。全体の約6割が知っていて、残りの約4割は知らないという結果となった。

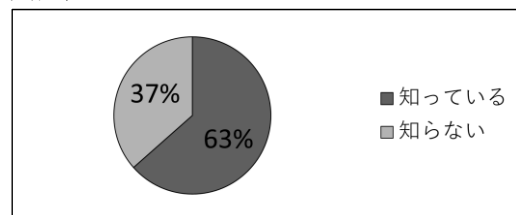


図7 オートチャージ機能があることを知っているか

以上の結果より、キャッシュレス決済の特性は現金決済を 선호する人の約6割から認知されており、現金決済を 선호しているからと言ってキャッシュレス決済の特性を知らないわけではないことが明らかとなった。

5.3. 仮説③について

仮説③(現金決済を 선호する人は、現金で支払うことを好んでいるのではないか)を検証するために、調査項目(8)の結果を確認する。

表1は、調査項目(8)「現金決済を希望する理由」の回答結果である。「現金で支払うのが好きだから」という理由を選択肢に設けたが、回答者数の割合は34.9%程度であった。この選択肢は3番目に多くの回答数を集めたが、回答数を最も多く集めた理由の「お金を使っている感覚がせず、使い過ぎてしまうから」(65.1%)と比較すると、高い割合ではないことが分かる。

以上の結果より、現金で支払うことを好んでいるかどうかは現金決済を 선호する上でそこまで重要ではないことが分かった。

表 1 現金決済を希望する理由(複数回答可)

現金決済を希望する理由	回答者数(%)
1 現金で支払うのが好きだから	22 (34.90%)
2 キャッシュレス決済で得られるポイントに興味がないから	2 (3.20%)
3 チャージ式のキャッシュレス決済のチャージが面倒だから	18 (28.60%)
4 セキュリティが不安だから	20 (31.70%)
5 紛失・盗難が不安だから	10 (15.90%)
6 お金を使っている感覚がせず、使いすぎてしまうから	41 (65.10%)
7 支払いの手続きが面倒だから	8 (12.70%)
8 残高を管理しにくいから	24 (38.10%)
9 パスワードを管理しにくいから	8 (12.70%)
10 使える場面が少ないから	8 (12.70%)
11 スマートフォン、パソコン等を持っていないから	0 (0.00%)
12 現金以外の方法で支払いたい、やり方がわからないから	4 (6.30%)
13 その他	7 (11.20%)

5.4. 仮説④について

仮説④(現金決済を選好する人は、ポイント利用に関心が無いのではないか)を検証するために、同じく調査項目(8)の結果を確認する。

現金決済を希望する理由に「キャッシュレス決済で得られるポイントに興味が無いから」という選択肢を設けた(表 1)。結果は63件中2件であり、ポイントに興味がない人は全体の3.2%しかいないことが分かった。

以上の結果より、現金決済を選好する人の中にポイント利用に関心が無い人はいるものの、それはほんの一部であり、多くの人に当てはまるわけではないことが分かった。

6. 考察

本研究では5つの仮説を設定し、アンケート調査を用いて検証した。

仮説①では、現金決済を選好する人の多くがキャッシュレス決済の利用について考えており、キャッシュレス決済に関心があることが明らかとなった。仮説②では、キャッシュレス決済の特性は現金決済を選好する人の約6割から認知されており、現金決済を選好しているからと言ってキャッシュレス決済の特性を知らないわけではないことが明らかとなった。仮説③では、現金で支払うことを好んでいるかどうかは現金決済を選好する上でそこまで重要ではないことが分かった。仮説④では、現金決済を選好する人の中にポイント利用に関心が無い人はいるものの、それはほんの一部であり、多くの人に当てはまるわけではないことが分かった。

これらを踏まえると、現金決済でないとお金を使い過ぎる心配があるということが、現金決済を選好する最大の理由であると考えられる。しかし、調査項目(9)「利用限度額の設定や利用履歴の確認ができるキャッシュレス決済があることを知っているか」で「知っている」と回答した39件中、調査項目(8)「現金決済を希望する理由」の「お金を使っている感覚がせず、使い過ぎてしまうから」を選んだのは22件であった。これは、使いすぎ不安を解消する機能が知られているにもかかわらず、56%の人は使いすぎ不

安を感じているということである。

機能が認知されているにも関わらず不安解消に至っていない背景には、機能が詳しく知られていないことや機能が不十分であることが考えられる。機能が詳しく知られるためには、どのように伝えていくかが重要となる。現金利用者がキャッシュレス決済に移行したいと感じる広告宣伝を考えていくべきである。また、機能が不十分であることに対しては、利用履歴を自動で通知する機能を追加するのはどうだろうか。現金利用者が財布の中を確認するように、スマートフォンを開けばお金をどれだけ使ったのか確認できるような機能である。自分でアプリケーションを開いたりせずに自動的に1週間の支出を通知することなどができれば、自分がどれだけお金を使っているのか自然に把握でき、使い過ぎないように心がけることもできるのではないだろうか。

キャッシュレス決済は、現金を介して決済することで得られていた「支払う感覚」が無い。そのため、お金を使い過ぎてしまうのではないかと心配してしまう。この不安はキャッシュレス決済が様々な機能を備えても解消されないのかもしれない。しかし、今あるキャッシュレス決済の機能の理解を得ることや、お金を使い過ぎないように通知する機能の開発など少しでも現金利用者がキャッシュレス決済に移行するような工夫をすることで、世界水準のキャッシュレス決済比率を達成できるのではないだろうか。

参考文献

- [1] 経済産業省商務・サービスグループ消費・流通政策課(2018)「キャッシュレス・ビジョン」
<https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/cashless/image_pdf_movie/cl_vision.pdf>
(参照 2025-1-7)
- [2] 経済産業省(2024)「2023年のキャッシュレス決済比率を算出しました」
<<https://www.meti.go.jp/press/2023/03/20240329006/20240329006.html>>(参照 2024-6-26)
- [3] 一般社団キャッシュレス推進協議会(2024)「キャッシュレス・ロードマップ 2024」
<<https://paymentsjapan.or.jp/wp-content/uploads/2024/12/roadmap2024.pdf>>(参照 2025-1-7)
- [4] 経済産業省(2024)「キャッシュレス」
<https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/cashless/index.html>(参照 2025-1-7)
- [5] 鶴沢真(2022)「キャッシュレス決済の利用動向と促進および抑制要因—利用者調査にもとづく普及への取組みとその政策的含意—」『昭和女子大学現代ビジネス研究所 2022 年度紀要』
- [6] 翁百合(2024)「大きく進捗したキャッシュレス決済コード決済の普及で若年層の現金決済志向は低下」『NIRA オピニオンペーパー』no.75/2024.Jan
- [7] 日本銀行(2018)「キャッシュレス決済の現状」『日本銀行決済機構局』2018 年 9 月